

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2025-04-01

No. 173

株式会社 コスモス・コーポレイション Cosmos Corporation
〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1

<https://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC &安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR 36 Ed. 1.1 電気およびハイブリッド電気道路車両 – 無線妨害特性(3/3)	3
IEC: 新規格リスト	7
ISO: 新規格リスト	13
国際テーマ: 電子機器産業にとって必要な金属が危機に直面	14
国際テーマ: シンガポールの製品安全要求事項に関する新しいガイドライン	15
国際テーマ: エジプト、国際規格に適合しない携帯電話を禁止	17
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	18
<hr/>	
USA: FCC: KDB: 別の機器認可申請の試験データを参照することを認める FCC のポリシー	19
USA: FCC: KDB: ミリ波デバイスの適合性を証明するのに使用するべき測定手順	20
USA: FCC: Lumi 社の適用免除要請に関するコメントを募集	21
USA: FCC: テスラ社の適用免除要請に関するコメントを募集	21
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	22
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	23
USA: IEEE: 新規格リスト	24
カナダ: ISED: 通知 2025-DRS0001 – NS 免除限度に関する指針	25
カナダ: ISED: 無線標準仕様、RSS-102.SAR.MEAS 第 2 版と RSS-102.SAR.SIM 第 1 版に関する意見募集	26
<hr/>	
UK: 一般製品安全規制の指定規格変更案が発行	28
EU: CENELEC: 新規格リスト	28
EU: ETSI: 新規格リスト	33
ニュージーランド: RSM: ワイヤレスマルチチャンネルオーディオシステム(WMAS)、510~606 MHz 周波数帯での運用が認可される	34
オーストラリア: AS/NZS 新規格リスト	35
<hr/>	
中国: CQC: モーターコンプレッサの II 型認証における新版規格の実施に関する通知	36
中国: CQC: タングステンフィラメントランプ用 AC/DC 降圧コンバータの安全性及び電磁両立性認証における新版規格及び認証規則の実施に関する通知	37
中国: CQC: 一般照明用安定器内蔵型 LED ランプの安全と電磁両立性の認証規格の版の切替えに関する通知	38
中国: CQC: 《強制性製品認証実施細則 電線・ケーブル》(CQC-C0101-2024)の改訂通知	39
中国: 新規格リスト	40
台湾: BSMI: 「標準相互接続プロトコル通信ポートを備えた発光ダイオードフラットパネルランプの省エネラベルのエネルギー効率基準および表示方法」を制定、2026 年 3 月 1 日より施行	42
台湾: 新規格リスト	43
韓国: RRA: (KS X 3123) 無線設備適合性評価試験方法の規格の一部改正に関する意見照会	43
韓国: KATS: 「電気用品及び生活用品安全管理運用要領」改正告示	44
韓国: KS 新規格リスト	45
<hr/>	
総務省: 電波利用環境委員会報告概要(CISPR 会議の審議結果)から抜粋で報告(2/3)	46
経済産業省: IoT 製品に対するセキュリティラベリング制度 (JC-STAR) の運用を開始	49
<hr/>	
ちよっといっぷく~小クイズコーナー AC アダプタに関するシンガポールの要求事項	18
コスモス・コーポレイション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	27
社長の独り言	51



IEC: 規格解説: CISPR 36 Ed. 1.1 電気およびハイブリッド電気道路車両 - 無線妨害特性(3/3)

- 5.4 試験対象物の条件
「推進 "Propulsion"」モードの動作条件: 電気車両またはハイブリッド電気車両は、負荷をかけないでダイナモメーター上で、または非導電性のアクスルスタンドaxle-stands上で、電動モーターのみで駆動される状態で試験すること。
- 付属文書 A (~~規範的~~、~~参考的~~)測定計装の不確かさ
本付属文書 A は、この文書で説明されている測定方法に対する測定計装の不確かさを評価するためのガイダンスを提供している。本付属文書では、不確かさの評価に測定計装のみを考慮している。
- 付属文書 B (参考的) 磁界強度の放射妨害測定に対する不確かさバゼット
代表的な不確かさバゼット – 距離 3 m – ループ アンテナ (例: ALSE 用) (サイトの不完全性 (OTS または ALSE) に関連する不確かさは、これらのバゼットでは考慮されていない。) 拡張不確かさ (in dB): $U(H) = 2u_c(H) = \del{4,13} 4,35$

国際テーマ: シンガポールの製品安全要求事項に関する新しいガイドライン

- シンガポールの消費者製品安全局(CPSO)は2月1日に製品安全要求規制情報冊子の最新版を公開した。IT/AV 製品に関する主な更新内容は、回路図に特定の IEC 規格に基づく部品の数値を示すこと、出力電力が 3 kW 超の電気機器は固定配線を有すること、③出力電力が 100 W 超の AC アダプタは、通達 CPSO-070923-11 (附録 I)に適合することなどである。この通達では、IEC 62368-1 の異なる版に基づく AC アダプタの要件が詳しく説明されている。冊子は CPSO のウェブサイトで入手可能。

USA: FCC: KDB: 別の機器認可申請の試験データを参照することを認める FCC のポリシー

- 別の機器認可申請の試験データの参照に関する KDB。付属資料“484596 D01 Referencing Test Data v02r03”に代わる“484596 D01 Referencing Test Date v03”が発行された。v03 はその前の v02r03 から大幅な変更が行われている。2025 年 4 月 30 日までは移行期間となっており、v02r03 か v03 のどちらかを適用できる。

総務省: 電波利用環境委員会報告概要(CISPR 会議の審議結果)から抜粋で報告(2/3)

経済産業省: IoT 製品に対するセキュリティラベリング制度 (JC-STAR) の運用を開始

- 2025 年 3 月 25 日より、経済産業省と独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) は、「セキュリティ要件適合評価及びラベリング制度 (JC-STAR)」の運用を開始した。共通の物差しで IoT 製品に備えられたセキュリティ機能を評価・可視化し、政府機関、民間企業から一般消費者まで、IoT 製品の購入者・調達者が、本制度のラベルを確認することで、自らが求めるセキュリティ水準の製品を容易に選択できるようにすることが目的とされている。IoT 製品共通の最低限の脅威に対応するための基準 (★1) 及び IoT 製品類型ごとの特徴に応じた基準 (★2、★3 及び★4) があり、★3 及び★4 については独立した第三者による評価を受ける第三者認証に基づき、ラベルが付与される。

IEC: 規格解説: CISPR 36 Ed. 1.1 電気およびハイブリッド電気道路車両 – 無線妨害特性(3/3)



Summary

CISPR 36 Ed. 1.1(2023-05) 電気およびハイブリッド電気道路車両 – 無線妨害特性 – 30 MHz 未満の車両非搭載受信機の保護に対する限度値と測定方法。本 CISPR 36 版 1.1 には、第 1 版 (2020-07) と、その修正 1(A1) (2023-05) の内容が含まれている。

1 適用範囲

車両から 10 m の距離の位置にある車両非搭載受信機を保護するための車両からの (150 kHz から 30 MHz の周波数範囲の) 最大放出 emission の限度値 (3 m の測定距離における) を規定する。

電気車両およびハイブリッド電気車両の駆動源は、従来は「トラクション バッテリー」と称していたが、修正 1(A1) により「再充電可能なエネルギー貯蔵システム」に変更された。

4 放射妨害の限度値

車両は、準尖頭値検波器の磁界強度限度値に適合すること。但し、時間節約のため、最初に尖頭値検波器による事前スキャンを実行し、それが準尖頭値検波器の磁界強度限度値に適合すればそのまま合格とすることができる。

5 測定方法

5.1.1 測定受信機

測定受信機 (FFT ベースの測定機器を含む) は、CISPR 16-1-1:2015 の要件に準拠すること。

5.2 測定サイトの要件

代替試験サイトの要件

代替試験サイトは、吸収体で覆われたシールドエンクロージャ (ALSE) とオープンエリア試験サイトである。その周囲磁界要件として、周囲騒音レベルは、条項 4 で規定されている妨害波の限度値より少なくとも 6 dB 低いこと、または、車両(この文書で規定されているとおり)に動作させからの放出と周囲雑音の組み合わせは、本規格の限度値に適合すること。

5.4 試験対象物の条件

「推進 "Propulsion"」モードの動作条件: 電気車両またはハイブリッド電気車両は、負荷をかけないでダイナモメーター上で、または非導電性のアクスルスタンド axle-stands 上で、電動モーターのみで駆動される状態で試験すること。

付属文書 A (~~規範的~~、~~参考的~~)測定計装の不確かさ

本付属文書 A は、この文書で説明されている測定方法に対する測定計装の不確かさを評価するためのガイダンスを提供している。本付属文書では、不確かさの評価に測定計装のみを考慮している。

付属文書 B (参考的) 磁界強度の放射妨害測定に対する不確かさバゼット

代表的な不確かさバゼット – 距離 3 m – ループ アンテナ (例: ALSE 用) (サイトの不完全性 (OTS または ALSE) に関連する不確かさは、これらのバゼットでは考慮されていない。)

拡張不確かさ (in dB): $U(H) = 2u_c(H) = 4,13 \rightarrow 4,35$

本解説では、修正 1(A1) によって技術内容が変更された箇所が、追加は緑色のテキストにより、削除は赤色の取り消し線により示されている。すべての変更を反映した別個の最終版は、この出版物の中の後半部で入手できる。

電気およびハイブリッド電気道路車両 – 無線妨害特性 – 30 MHz 未満の車両非搭載受信機の保護に対する限度値と測定方法

レッドライン版

公式 IEC 規格とその修正からなる本統合版は、ユーザーの利便性のために作成された。CISPR 36 版 1.1 には、第 1 版(2020-07)と、その修正 1(A1)(2023-05)の内容が含まれている。



株式会社コスモス・コーポレーション

自動車部品の耐水試験についてのご案内

当社では自動車部品に対する耐水試験が実施可能です。

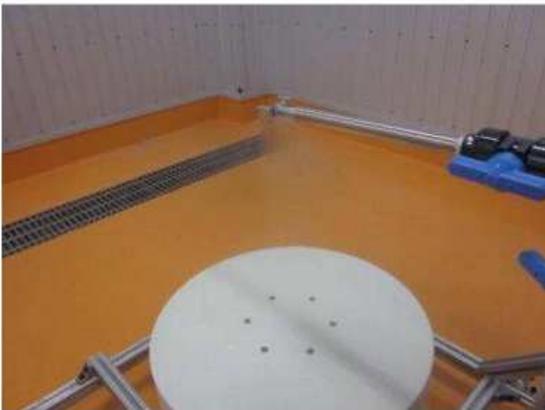
(JIS D 0203 対応)

対象試験記号: R1 / R2 / S1 / S2

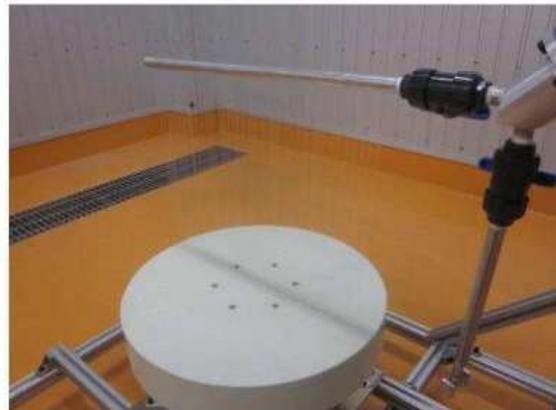
評価実施内容

散水試験	R1・・・ 水滴に触れることのある部品の機能を調べる試験
	R2・・・ 間接的に風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
噴水試験	S1・・・ 直接風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
	S2・・・ 強い受水状態について部品の機能を調べる試験

R1 及び R2



S1 及び S2



耐荷重: 45kg まで試験実施可能です。

許容サンプルサイズ: 実施可能サンプル寸法は規格に従い、基本的に 40cm の高さで設定していますが、それ以上の寸法であっても対応可能な場合もございますので、指定のサンプルサイズを事前にご連絡下さい。

松阪事業所 : 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718-1

URL : www.safetyweb.co.jp E-mail : sales@cosmos-corp.com

【お問い合わせはCS部まで -- TEL: 0598-30-5225 (直通), FAX: 0598-30-5571】

株式会社コスモス・コーポレーション

社長の独り言

2025年3月17日
濱口 慶一

桜の便りも聞こえてきましたが、皆様はいかがお過ごしですか？

米国の新大統領の打ち出すいろいろな政策は、日本経済はもちろん、世界経済にも非常に悪い影響を与えるのではという懸念があります。世界が繁栄し、戦争のない世界へと進めるような施策をとっていただきたいと願う今日この頃です。

コスモスは、お客様に喜んでいただけるサービスを提供することを目標に、社内スタッフの教育や設備を整えてきましたが、“ISO 31000: 2018 (JIS Q 31000: 2019) リスクアセスメントの解説と適用ガイド”の“図 1—原則、枠組み及びプロセス”にある人的及び文化的要因(箇条 3. 原則の h))の観点から、もう一度社内のシステムを見直す必要があると強く感じています。

当社の品質マネジメントシステムは、何回か監督省庁の監査を受けながら改善を進めてきて、ほぼ固まりつつあります。そのシステムをトップの意向で勝手に変更することはできません。そのため、あくまでも改良案として所管の監督省庁に申請、承認が必要となり、実際に運用を開始するまで非常に時間がかかってしまいます。その時間があまりに長いと別の改良点が出てくる場合もありますので、良い方向にシステムを改良することが非常に難しくなる可能性があります。そのようなジレンマ的なマネジメントから脱却するため、新たに副社長、部長 2 名、課長 1 名を任命しました。

私は、有限会社エーペックス・インターナショナル(現在の UL ジャパン)で約 7 年間、製品安全業界で働き、その経験を基に 1987 年に当社を設立しました。皆様のご支持を受けてここまで成長させていただきました。途中、経済産業省から行政処分を受けたこともあります。最近、経済産業省の多くの方々の当社への見方が変わったと感じています。試買試験業務に復帰するようにとのお声も頂戴しました。しかし、JIS 規格の IEC 規格への整合化の途中で復帰するのは、以前の電気用品取締法による規格判断が私の判断と少し違っており、復帰しても判断ミスを引き起こす可能性もあります。そのため、JIS 規格の IEC 規格への完全な整合化が完了してから、副社長の判断に委ねようと考えています。

さて、最初に少し触れた、米国による関税引き上げが日本に適用されなければよいのですが、予断を許さない状況です。今後お客様にも多大の負担が生じてくることが予想され、また、昔のように何十万台も生産する製品が少なくなってきました。そこで当社は、お客様と“作業の分担で費用を低減”できるようなシステムを構築できないか検討中です。当社の技術者の教育を受け、当社の CB スキームのカテゴリの規格に関して当社が認めた“技術者が実施し、提出した構造・試験レポートを弊社のレポートの一部に採用し、その分のお客様のコストを低減するシステム”です。具体的な内容はまたの機会に紹介できればと思います。

さて、天候が少し不安定ですが、まもなく日本蜜蜂の分蜂が始まります。苦手なあの“長い”生き物も冬眠から覚めて活動を始めますが、巣箱を数箱用意して、蜜蜂が入居してくれることを期待したいと思います。

- ニュースレターの内容

本誌は、**EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation)** 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域
- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

- 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション CS 部 (カスタマーサービス部) まで ishii-keisuke@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、46 ページ前後。
- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

- 本誌の内容案内、ご購入案内は、<https://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は原著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO : European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2025-04-01 (No. 173)

発行所: 株式会社コスモス・コーポレーション 本社・松阪事業所

住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1 ホームページ: <https://www.safetyweb.co.jp/>

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2025 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。